



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel: 049-226-2491 fax: 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 20-03

9月号

発行 2018年9月13日

Chartered 1998

会長	森下 千恵子	クラブ会長主題	「ワイズメンズクラブを楽しもう！」
副会長	松川 厚子	国際会長主題	“Yes, we can change” [私たちは変えられる]
会計	山崎 純子	アジア太平洋地域会長主題	“Action” 「アクション」
書記	吉野 勝三郎	東日本区理事主題	「成せば、成る」 No challenge, No fruit.
		関東東部部長主題	「良いものを見つけ・つなげて、よくなるう」

9月の聖書

主はわたしの岩、砦、逃れ場
わたしの神、大岩、避けどころ
わたしの盾、砦の塔。
詩篇 18章3節

The Lord is my rock, my fortress and my deliverer;
my God is my rock, in whom I take refuge.
He is my shield and the horn of my salvation, my
stronghold.
(Psalm 18.3)

2018年7月の統計 (8月23日・25日)

在籍11名 出席者10 出席率90%

2018年 9月例会プログラム

日時: 8月20日(土) 午後7:00-9:00
場所: ウェスタ川越内 2階第4会議室
・開会点鐘 会長 森下 千恵子
・ワイズソング、ワイズの信条 一同
・川越クラブ20周年行事について
・紅あか販売について
・その他
・閉会点鐘 森下 千恵子会長

8例会の報告

2018-2019年度川越クラブ 書記 吉野 勝三郎

8月25日(土)、23日(木) 足利へのバス旅行の直

後、しかも夕刻にも関わらず、関東東部の衣笠部長のクラブ訪問ということで、衣笠部長は元より、国際・交流事業主査の渋谷弘裕メン(所沢)も参加してくださいました。

1. 衣笠輝夫部長より

9月29日(土)の関東東部部会のアピールがなされました。

ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区

関東東部 部大会

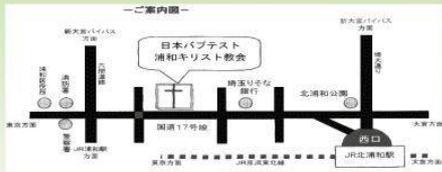
2018年9月29日(土)

受付	13:30~
部会	14:00~
パネルディスカッション	15:15~
懇親会	17:00~

場所: 日本バプテスト浦和キリスト教会
会費: ワイズメン: 5,000円
参加コース: 無料

良いものを見つけ・つなげて・よくなるう
パネルディスカッション with youth

パネラーブロック 1: 都市YMCA学生ユースリーダー (OB含む)
2: 関東地区学生YMCAコース (OB含む)
3: 教会に集うコース (学生・社会人含む)
4: YMCAスタッフ
5: ワイズメンズクラブ



埼玉県さいたま市
浦和区常盤7-2-14
tel: 048-831-0532

申し込みは申込用紙にてクラブ単位で9月15日までにお願いいたします。会費は5,000円。
申込用紙は部書記(山本) または 部HPより入手可能です。当日は名札ケースをご持参ください。
関東東部 部長: 衣笠輝夫
部大会実行委員長: 小関京子

衣笠部長は、予てから、
一学生YMCA

- 都市YMCA
- 教会

に集う若者達の横の連携がないことを残念に思い、今回はそれを繋ぐきっかけを作るために、パネルディスカッションを企画されました。川越クラブからも多くのメンバーが参加して、今後の活動のあり方のヒントを掴みましょう。

2. 73rd Y's Men International Convention Yeosu Korea 参加報告

利根川太郎・恵子

例会では、パワーポイント使った報告でしたが、別途、美しい写真を散りばめた詳細な報告原稿をもらいましたので、概要に編集し直さず、そのまま、プリテンに掲載しますので、ぜひ、ご覧下さい。

2018年8月9日から12日の四日間にわたって開催されたワイズメンクラブ国際大会に参加して参りました。

恵子が8日のアジア太平洋地域議会に参加するため、7日に羽田から金浦空港経由で麗水へ入りました。

麗水は人口およそ30万人、全羅南道東部に位置し本土から大きく突き出した麗水半島にあって、市域に365の島が点在する観光地です。2012年には麗水国際博覧会 (Yeosu International Exposition) が開かれています。観光資源も多く海産物も豊富で (特に牡蠣の養殖が盛んのように) 人気の観光地ようですが、東京からのアクセスはあまり良くありません。金浦または仁川空港から空路で麗水空港か、ソウルからKTXまたは釜山から高速バスの方法がありますが、いずれも遅れやキャンセルなどトラブルが多いようです。

今回の国際大会は、麗水国際博覧会場跡のエキスポセンターを会場として開催されました。

7日は移動だけでしたが、金浦空港で乗り継ぎを待っていると、何やら放送で呼び出しが。荷物検査のバックヤードに連れて行かれると、通訳用インカムとお土産に持ってきたマグネットが引っかかっていました。波乱の幕開けとなりました。

夕方やっと麗水のエレナホテルに到着。麗水は比較的大きな地方都市ですが、街はほぼハンゲルだけ、英語表記はホテルの中も見かけません。フロントでレストランを教えてもらうも地図もハンゲル、勘を頼りに夜の繁華街へ出かけました。

ここでは韓国の人々の親切に感激しました。通りすがりの50代とおぼしきカップルに道を聞くと (もちろん身振り手振り) おじさんが地図を取り上げてずっと道案内をしてくれるではありませんか。結構な距離を歩いたところで店に入ると、私たちの料理を注文までしてくれて帰って行きました。困っている人がいたら、私たちもできるだけのことをしようという思いになりました。(おじさん



が注文してくれた焼き肉セット、お肉が700gと野菜や漬物、煮物などが付いて3,300円ほど。安い!)

8日は、隣の光陽市にあるラッキーホテルでアジア太平洋地域議会のあと会食。太郎は、午前中麗水市のAqua Planetを見学してデジョンから会いに来てくれたギョンミ (Gyeongmi) さんの車で会食会場に向かいました。ギョンミさんはアジアユネスコ文化センターの研修で日本にいらした時に1日だけお世話した方で、小学校の先生です。今回連絡したところ、3時間もかけて車で会いに来てくれました。



9日はよいよ麗水エキスポセンターでの国際大会オープニングです。会場はともかく広大で、エキスポの跡地にホールや会議室があり、周辺には水族館や海洋レジャー施設など、休日には多くの人で賑わうところです。今回の国際大会は参加者数が過去最高と言うことで、3000人超と聞きました。さすがに多くの会員数を抱えて、伸び盛りの韓国Y's Menと感じました。しかし、この広い会場に案内係のサポーターは皆無で英語表記の案内もなく、会場をだいたい右往左往している外国人の方が多かったのは残念でした。配られたプログラムからの時間変更や会場変更も多く、英語のアナウンスもメイン会場で1回きりという対応で、大変多くの韓国Y's Menの対応だけで精一杯であったようなのは、国際大会としては残念なところでした。初日に出会った韓国人の本当に親身になって面倒を見てくれた親切と、どうにもちぐはぐなギャップを感じてしまいます。来年のAsia Pacific Area Conventionでは、特に日本語が分からない人たちがストレスフリーに会場を移動できるように、おもてなしの心でサポートするゲストファーストで考えなくてはと感じました。

オープニングは、EDG(Expo Digital Gallery)と言うオープンエアのイベント会場です。大変蒸し暑い中、Invocation(お祈り)、Y's Men Flagの入場と各国Y'sの紹介、挨拶と祝辞などオープニングセレモニーが進



み、国際会長の就任式 IPIP、IPE、それぞれのメネットへのバッジの装着式、国際会長ホームクラブ・パナーの引き継ぎが行われました。



続いて、大会の基調講演が行われました。スピーカーは Yong-ok Kim 教授です。この方は 1970 年代に日本の東京大学に留学し、中国の儒学者ワン・フーチンについて研究された方です。その留学時に彼の保証人となって支えたのが、Y's Man の奈良信さんでした。彼は、奈良さんを通して内村鑑三や東大の学長を務めた南原繁の思想に触れ、日本のキリスト教指導者の崇高な理念を理解できたと述べていました。



夕食は、いくつかの会場に分かれてビュッフェ形式、席は指定されておらず国際的な交流はあまりしやすい環境では無かったかなと思います。夕食後は IPIP Night、近くの「Big O」というプロジェクションマッピングを行う施設で海軍音楽隊や Korea Tradition Band によるパフォーマンスが繰り広げられました。

この会場で、東京江東クラブの藤井寛敏さんに、長年のワイズダムへの多大な功績に対し、ワイズメンの最高の栄誉であるボランティア賞が授与されました。



10 日は、西村隆夫・国際書記の報告から始まりました。西村さんは今年度限りで国際書記を退かれると言うことで、皆さんから惜しまれつつ最後のレポートをなさいました。その後、各テーマに分かれて Forum (分科会) が開催されました。私は、「ワイズと YMCA のパートナーシップ」の分科会に参加しました。Speaker



は 3 人で最初に登壇したのは国際リエゾンの山田公平さん (宇都宮クラブ) です。山田さんは Y's と YMCA の双方向の話し合いと協力の重要性を強調し、その新たな取り組みについて報告しました。主催者が、YMCA 職員を 30 名招聘し、22 名が参加したということで、3 人のパネリスト発表後の質疑応答はとても活発で、各地域や国の状況を反映して大変興味深いものでした。

午後は、講演とエクスカージョンでした。講演は韓国語と英語で交互に話してくれるのですが、英語で話した時間は 4 分の 1 ぐらいで、内容は面白いのだろうと想像しますが、恵子も日本語に通訳をしても内容が十分に伝わらないもどかしさを感じながらの通訳となりました。英語圏の聴衆はだいぶ途中で席を立っていました。

エクスカージョンは突山島の海岸沿いにある「向日庵」という山寺と海上ケーブルカーのグループに参加しました。「向日庵」では、300 段の階段を上ると素晴らしい景色だとか。階段までに急な上り坂が続き断念しました。急な上り坂でガイドの方からマッコリを勧められ、ほんの少しだけ頂きましたが美味しいものです。西村さんと藤井さんは早々に泡の立つお茶? を求めて横道にそれていきました。



海上ケーブルカーはあいにく雨が落ちてくる中の空中散歩でしたが、麗水の街や海上を行き来する船舶も見えて、晴れていたらとっても綺麗だろうと思わせる素敵なものでした。

この夜の IPE Night は、オーケストラ演奏などのエンターテインメントの後、地域ごとの出し物です。Asia Pacific Area は「We are the World」を歌いました。出来はともかく気持ちは伝わった出し物となりました。毎回のことながら、アフリカ地域の躍動感溢れる音楽と踊りは会場を一つにし、会を盛り上げていました。西日本区の浴衣姿の参加者が阿波踊りでアフリカ勢と合流したのは見物でした。

11 日は、朝から Asia Pacific Area Conference (2018-2019 Kick-off Meeting) でした。田中博之アジア太平洋地域会長 (東京多摩みなみクラブ) の就任式が、次期国際会長のジェニファー・ジョーンズさん

の司式で執り行われ、地域書記の恵子をはじめ、事業主任の任命が田中会長からありました。多くの方々が参加してくださり会場はほぼ満員で用意したレジュメもパンフレットもほとんど無くなる状況でした。



私たちは帰りの飛行機の時間があり、12時には早々においとましましたが、大変に充実した国際大会を経験できました。また、仙台で来年開催される APAC についても、多くの参考をいただけたと思います。ありがとうございました。

3. アースデイ・イン川越

主として、7月例会で話し合われたことの再確認となりましたが、鎌田メンが例会に出席され、“アースディー・イン川越”は、近年では廃棄食品の量を減らすことを目指しているとのこと。その意味で、環境問題への取り組みである、Green Activities のCO2削減に関連するパネル展示を行うことは主旨に沿ったものになります。

なお、有機肥料栽培による三富のさつまいもを井上さんに会場で焼いて即売してもらうことも確認されました。

今年は、第20回になり、10月7日(日)に開催されます。

4. チャリティーランの件

今年も 11月3日(土)に所沢の航空公園で開催されます。川越クラブからは、“A”と“B”の2チームが参加予定です。1チームは川越YMCAに集う子ども達が、もう1チームは、我らが川越ワイズの老若男女が走ります。どうぞ、今から走る練習をしておいて下さい。走らないで、歩く参加もあります。

5. 紅あか販売の件

いよいよシーズンが近づいてきました。



●ホカホカイモとは、川越名産のさつまいも「紅あか金時」のことで、川越方面の一部の農家で栽培生産されている200年の伝統を誇る品種です。
●川越ワイズメンズクラブは、この紅あか金時を販売しチャリティー活動として、川越YMCAの施設を稼働し、国際交流・協働プログラムなど社会貢献活動に取り組んでいます。

紅あか金時チャリティーでYMCA 支援活動の
川越ワイズメンズクラブ

チャリティー「川越イモ紅あか金時」

故・工藤徹さんが始められたチャリティー「川越イモ紅あか金時」販売は、昨年も皆様のご協力により継続することが出来ました。今年もまた、引き続き行っていきますので、よろしくお願いいたします。

川越ワイズメンズクラブは、学校になじめない子どもを守り育てる放課後等デイサービス・クローバークラブなど埼玉YMCAの社会事業を支援しています。その為のファンドに3百年伝統の名産「川越イモ紅あか金時」を特産販売しています。今年も予約をお受けしていますのでよろしくお願い致します。おイモの嫌いな方は1口500円のチャリティー歓迎です。

5kg (運賃込み) 2,950円 / 1箱
10kg (運賃込み) 5,050円 / 1箱

※注意： サイズはM・L・LLの混合となります。(サイズ指定はできません)
手渡しはなく、すべて発送にさせていただきます
収穫は11月上旬からのため、発送はそれ以降となります
関東以外の遠隔地においては別途送料100〜500円がかかります。

注文先： 川越クラブ 利根川 太郎、山崎 純子
住所：〒350-0046 川越市菅原町7-16 埼玉 YMCA
TEL: 049-226-2491 / FAX: 049-226-2304
メール: kawagoysmensclub@yahoo.co.jp
下記の注文票を川越クラブ利根川宛にメール・郵送・FAX等でお送り下さい。

【紅あか金時注文票】

5kg→ 箱()円 / 10kg→ 箱()円

チャリティー ()円 / 合計→ 箱()円

(発送後、請求書をお送りしますのでお振込みください)

注文者氏名 : _____

住所 : 〒 _____

電話番号 : _____

メールアドレス : _____

発送先 (上記と同じ場合は記入の必要はありません。請求書は注文者に届きます。)

発送 : 5kg : 箱、10kg : 箱

氏名 : _____

住所 : 〒 _____

電話番号 : _____

[発送先が複数になる場合は、この用紙の裏もご利用ください]

今年も、多くの注文を期待します。

6. 埼玉 YMCA フェスティバルの件

9月17日に所沢センターで開催されます。川越クラブとしては、昨年同様に、芋菓子の販売を行いますので、ご協力をお願いいたします。

埼玉 YMCA フェスティバル

【第一報】

2018年9月17日(月)

午前11:00～午後3:30(予定)

開催場所：埼玉 YMCA 所沢センター



YMCA
あつまる、つぎある、
よびあつていく。



International
Charity Run

第19回 埼玉 YMCA
インターナショナル・チャリティラン 2018
2018年11月3日(土・祝)
in 所沢航空記念公園

お菓子募金
開始!!

9月上旬より
エントリー開始!!

7. 足利ココファームワイナリー バス旅行報告

ココ・ファーム・ワイナリー見学&足利学校ツアー報告

森下 千恵子

8月23日木曜日栃木県足利市にあるココ・ファーム・ワイナリー見学&足利学校ツアーを実施しました。

当日は朝8時15分にウエスタ川越前に集合。参加者は川越ワイズメンズクラブのメンバーと家族、私たち家族の友人の日向さん、私の職場の後輩の須賀さん、所沢クラブから小関さん、埼玉クラブの会長上松さんが参加してくださいました。また川越YMCAのクローバークラスや指導員の方々と総勢27名のツアーとなりました。



ココ・ファーム・ワイナリーはどんなワインを造っているかと言いますと、スパークリングワイン「1996 NOVO」が2000年に開催された九州・沖縄サミットの首里城での晩餐会に使用されました。2008年には赤ワイン「2006 風のルージュ」が北海道洞爺湖サミットの総理夫人主催夕食会に使用されました。その他国賓の方々の晩餐会に数多くのココ・ファームのワインが使用されています。JAL国際線ファーストクラスラウンジや国際的な催しにも使用されているワインを製造しているワイナリーです。

交通渋滞もなく少し早目の到着でしたがこころみ学園の食堂に案内され佐井正治事務局長さんのお話を聞きました。



こころみ学園は昭和33年に中学の特殊学級(現支援学級)の教員だった川田昇先生と学級の子供たちが中心になって足利市田島の山を開墾して葡萄畑を作ったことに始まります。

川田先生は昭和41年に千葉の障害者施設長をしたときに、当時としては最新の冷暖房完備、水洗トイレのある施設で子供たちの目の輝きが段々失われていくという経験をされたそうです。そして昭和44年にこころみ学園を開設するにあたり、子供たちの手が白く柔らかいを見てこれではいけないと思い、子供たちが何とか親なき後にも生きていける力をつけるように「貧乏でいいから、汗を流して、家族の様に暮らす」という方針のもとにこころみ学園を立ち上げたそうです。そして昭和55年こころみ学園の考え方に賛同する保護者たちの出資により有限会社「ココ・ファーム・ワイナリー」が設立されました。

こころみ学園は現在入所者94名、短期の入所者10名前後の100人ちょっとの他スタッフ10人で運営されています。平均年齢は57歳、最高齢の方は95才だそうです。自分のことは自分でするというで朝6時に起床。全員で掃除をし、食事の準備も職員1人と5人のスタッフで朝120食、昼190食を作っているそうです。洗濯もします。

事務局長さんのお話によりますと、こころみ学園の基本的作業として初級者は椎茸の原木運びをさせるそうです。90センチほどに切った原木を運ぶのは容易なことではありません。傾斜のきつい山での作業は集中しないとケガや事故につながりますし、何よりも体力がいらいます。しかしこの作業をすることでバランス

感覚や筋力はもちろん集中力がつき見違えるように落ちて仕事をするようになるそうです。

当初は国の援助なしで始まったころみ学園ですが、現代では法の壁、役所の許可等入所するには空きがないと希望しても入所できない、入所者が高齢化していくという問題があります。

事務局長さんのお話を聞いた後、外に出てワイナリーの見学をしました。平均傾斜が38度の葡萄畑は見るだけでため息が出ます。誰かが「あそこ登るの～」と叫びました。いえいえ葡萄畑には入れません。大丈夫です。



そこで私は吉野さんから一人の紳士に紹介されました。足利ワイズメンズクラブの諏訪治男さんでした。このツアーのためにわざわざワイナリーに来てくださったのでした。諏訪さんは足利の出身というだけでなくころみ学園の草創期からご存じの方で詳しいお話をお聞かせいただけただことは本当に貴重なことでした。



天気も良く暑かったのでワインの醸造所は涼しく、みんなドンペリニオンはシャンペンの発明者の盲目の修道士の名前だったことに驚いたりしました。



食事の前に大人は4種類のワインのテイスティング、子供たちはブドウジュースのテイスティングを楽しみました。食事自己紹介やワインなどで楽しんでもらえたようです。



ワイナリーの後は足利学校見学でしたが、子供たちも期間限定の足利学校クイズラリーを、大人たちは自前ガイドのメネットハズバンドの私の夫とともに思い思いに見学しました。

今回のツアーは私の長年の希望を川越クラブの企画にし、クラブ始まって以来の初めてのバスツアーとなりました。ワイナリーに未成年も連れてきてしまいましたが、ワインのかわりにぶどうジュースを味わってもらい、多くの方々と楽しく貴重な経験を共有できました。

ワインに特に趣味があるわけでもない私がココ・ファーム・ワイナリーに興味を持ったのは15年以上も前に読んだ新聞記事でした。沖縄サミットの晩餐会に使われたワインとアメリカ人のワイン技術者の話でした。知的障害のある子供たちが“おいしいワインを作るため”に一生懸命に葡萄を摘む。彼らには効率とか合理化とかは関係なく一生懸命葡萄を摘む。そしてアメリカから指導にきたワイン技術者がココ・ファームに魅せられて6カ月のはずが十年以上になってしまったというお話が頭の中を離れなかったのです。まるでサマセットモームの小説のような話です。

今の時代、効率よく合理的なのは大切なこと。時間も経費も節約も大事です。その一方で、楽ではないこと、きりのないなど不条理に思えることが人生の大事なエッセンスなのだと、きっと誰もが心の片隅で感じていたことがあると思うのです。ころみ学園の見学を通じて「そうだよ」と頷いたのではないのでしょうか。

きりをつくと鈍ってくる、だからきりがないようにする。快適な環境が目の輝きを失わせる。自分でできることは自分でみつけてやる。地に足をつけて腑に落ちる生き方を見つけること、これは障害があるとかないとかではなく、人間みんなに等しく言えることではなかつと思うのです。

川田先生は「とにかくいいものを作る。障害を売り物にしない」と繰り返し言っていたそうです。ワインのことはよくわからないけど、有名ブランドが並みいる中サミットの晩餐会に選ばれたのは本当においしい

いワインだからなのでしょう。因みに佐井事務局長がおっしゃるには1,700円のワインも5,000円のワインもかかっている手間は全く同じですということ。これはお値打ちものです。

最後に足利ワイズメンズの諏訪治男様、来ていただけたと思っていませんでした。ワイズ歴50年、「私は死ぬまでワイズメンです。」と言っていたのが印象的です。ココ・ファーム・ワイナリーのみならず行く先々を自家用車で先に回り、資料をみんなに配り、貴重なお話をお聞かせいただいた上に、バスの中でとお土産までいただいて本当に言葉もありません。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

8. 会費の納入をお願いします。

2018-2019年度の年会費が未納の方は、下記をお願いいたします。川越クラブの年会費は、50,000円です。

ゆうちょ銀行 記号・10300

番号・61281371 カワゴエワイズメンズクラブ

YMCA 報告

< 第2報 : 9月17日(月・祝) 埼玉YMCA フェスティバル >

今年も埼玉YMCAに集う皆様の交流の場、地域の皆様にYMCAの諸活動へのご理解、ご協力をいただく場として、埼玉YMCAフェスティバルを開催いたします。

フェスティバルの収益金は、ボランティアリーダー育成や、被災者支援活動、地域貢献活動に使用させていただきます。

<11月3日(土) 第19回 埼玉YMCA インターナショナルチャリティーランを開催します>

今年も航空記念公園にてチャリティーランを実施いたします。今年も、ラン6周(5.5キロ)、ウォーキング3周(約2.7キロ)という新しい個人種目が増えました。チームを作るのは難しいけれど・・・という方におススメです。お知り合いの方にもぜひご紹介ください。

<8月23日のバス旅行では、大変お世話になりました。ありがとうございました。>

